

## 「授乳・離乳の支援ガイド（仮称）」策定のねらい

## 〈授乳への支援〉

国民運動や国のプランに母乳育児に関する目標を掲げて推進。

●平成13年「健やか親子21」スタート（母子保健の2010年までの国民運動計画）。

（指標）「出産後1か月時の母乳育児の割合」

（策定時の現状値）44.8%

（2010年の目標）増加傾向

●平成16年「子ども・子育て応援プラン」公表（平成16年12月24日少子化社会対策会議決定）。

（具体的施策）「母乳育児の推進」

（今後5年間の目標）増加傾向 \*12年度 44.8%

## 〈離乳への支援〉

離乳食の進め方に関する目安を公表するなど適切な情報提供の推進。

●平成7年「改定 離乳の基本」公表（平成7年12月4日 母子保健課長通知）。

●平成17年度乳幼児栄養調査結果（平成18年6月29日公表）とともに、

- ・ 授乳や食事について不安な時期は、出産直後がピーク、4～6か月で再び増加。
- ・ 授乳について困ったことをあげた者は約7割。特に、人工栄養（粉ミルクを与える）の場合では「母乳が出ない」（56.9%）、混合栄養（母乳と粉ミルクを与える）の場合では「母乳が不足ぎみ」（44.7%）が高率。
- ・ 母乳育児に関する出産施設での支援があった場合に、母乳栄養の割合が高率。
- ・ 離乳食の開始時期は、5か月以降が増加し、10年前に比べ遅くなる傾向。
- ・ 離乳食について困ったことをあげた者は約6割。「食べ物の種類が偏っている」（28.5%）、「作るのが苦痛・面倒」（23.2%）、「食べる量が少ない」（20.6%）の順。

その他の調査研究結果など最新の知見、具体的取組の実施状況を踏まえ、

## 〈授乳・離乳への支援〉

授乳に関する適切な支援のあり方を検討（出産施設での支援や地域のネットワークづくりの促進など、支援環境が進む方向へ）

関連に配慮

「改定 離乳の基本」の改定を検討（子どもの発達状況にあわせて個別対応できる内容へ）

●平成18年度「授乳・離乳の支援ガイド（仮称）」の策定

（ガイドは、保健医療従事者向けに科学的根拠に基づいた解説を加えたもの。その一部に、妊産婦や保護者向けに適切でわかりやすい内容を盛り込むよう配慮。）